

けていた。「供給責任は果たしていく」。福島第1原子力発電所から半径60キロ圏内。放射能の影響を懸念し、一時は工場移転も考えたが、手探りでゼロから築いた技術は風評に負けなかった。

エスクは精密パイプの加工事業者。一見すると中空には見えないほどの針のような細さまで均一な厚みのパイプを作る技術を誇り、自動車の燃料噴射用ノズルや、携帯電話のアンテナなどを支える。ステンレスやアルミ

金属製の精密パイプ 職人技、機械に依

エスク



風評被害の最大の防御に

材とする内視鏡用の部品、動でほとんどやってくれ、手がけ、自動車や電子の機械を使った加工はす

テレビの汎用部品にシフト時に梱包を移し替えてほらなければダメ」という。研磨の工程に「コナツミルクやコメのとき汁を試してみるなど、今も努力に余念がない。

もっとも、言い値を通すためには、技術だけでなく醸成した信頼感も欠かせない。相手の不安を先回りして予測し、策を講じて信頼を得る――。

風評に負けないエスクの姿は、強いものづくりの原点かもしれない。

「敬称略 (宇野沢晋一郎) 〓この項おわり

宮坂木材など 間伐材で成型用原料

製材会社の宮坂木材産業(和歌山市、宮坂雅博社長)とプラスチック成型加工のサンキョー化成(和歌山県海南市、久保田哲司社長)は間伐材を使った成型用木質ペレット(固まり)「写真」の販売を始めた。合成樹脂に混ぜて成型品に加工するもので、既存の射出成型機でも加工できる。環境に配慮した製品の原料として売り込み、来春に

合成樹脂に 既存設備で加工可能



は月産1000tを目指す。「シムシースMB」の製品名で販売する。直径3ミリ、長さ3・5ミリほどの粒で、木粉の割合が90%と高いのが特徴。従来品は木粉の割合を高めると合成樹脂と混ぜたときに流動性が低下して成型しにくくなり、特殊な設備が必要になることもあった。

出光興産が開発した特殊な添加剤を加えることで成型時に木粉が均等に混ざり込むようにした。間伐材の利用拡大につな

がり石油を原料とする合成樹脂の代替品にもなることから、二酸化炭素(CO₂)の排出削減効果をアピール。環境配慮型製品の原料としての利用を見込む。

間伐材の木粉のほか、製材時に出るおがくずを再加工した木粉も利用す

出光を加えた3社で特許出願中で、間伐材の活用に取り組む全国の自治体や森林組合、企業に販路を広げる。価格は石油系の材料よりも割高になるが、量産が軌道に乗れば同程度まで引き下げられるとみている。

石光商事 中国で子会社、食品販売

【神戸】ジャスタック一事は海外事業を強化す 上場で食品商社の石光商事。年内にも中国に全額出資子会社を設けて、コ

イグサの緑保つ土 福山大と最適配合研究

【福山】佐藤相互建設 山大学工学部と共同研究の最適土を作るため、採取先に決めた福山市と広島県尾道市の土の配合比率などを大学の研

研究設備やノウハウを活用して研究する。来年夏のイグサの刈り取り時期までに製品化を急ぐ。

佐藤相互建設・平和建設、平和建設のグループ会社で農業生産法人のアグリイグサストーリー(福山市)、土壌調査のエイチテック(同)は国土交

愛媛、香川、学で構成する一学院連合農学研

V B 支援の

東京商工会議所は10月から、海外事情に詳しい企業や団体を「アドバイザー」として中小企業に紹介する。歴史的な円高が続く中、大手企業の海外シフトは加速しているが、中小企業については戸惑うケースが目立つ。

を販売する。タイやインドネシアでも現地法人の設立を検討しており、2010年度は約32億円だった海外事業の売上高を、15年度には100億円まで伸ばす計画だ。

中国では、ブラジルのコーヒー豆や、ベトナムの水産物などを販売する。これらは日本の本社を経由せず、直接調達を検討する。全額出資子会社の詳細については今後詰める。

石光商事は今年4月に海外事業部門を設けて、「ニッポン食」の輸出などに努めている。現在は、中国の上海と、タイのパ